

## 第1回 嬉野市障がい福祉計画策定委員会

開催日時：令和2年10月15日（木）14時～

開催場所：嬉野市役所 嬉野庁舎2-3-1会議室

### 【委員】

区分	氏名	備考
嬉野市身体障害者福祉協会会長	中山 逸男	
嬉野市手をつなぐ育成会会長	北川 正大	会長
第一たちばな学園 総務課長	稲富 泰明	副会長
くろかみ学園 児童発達支援センター施設長	山田 博子	
杵藤保健福祉事務所 福祉支援課長	山口 光史	
嬉野市 市民福祉部長	陣内 清	

### 【事務局】

嬉野市 市民福祉部 福祉課	課長	大久保 敏郎
	副課長	山口 裕美
	主任	松本 義郎

### 【配布資料】

- ・第1回嬉野市障がい福祉計画策定委員会 次第
- ・第1回嬉野市障がい福祉計画策定委員会 協議資料（事前配布）
- ・計画の構成案、指針の一部改正について、事業所アンケート（当日配付）

## 議事

### (1) 障がい福祉計画について

会 長：事務局より説明があったが、意見等はないか。

委 員：委員の役割とはどういったことか。計画は国の指針に基づくとのことだが、具体的にどのようなものなのか。5期の計画のスタイルをそのまま踏襲するのか、今の段階で見通しがあれば教えて欲しい。

事務局：国の指針の一部改正について資料を用意しているので配布し説明する。前回の指針から改正したものの内容になっており、これを要約したものが協議資料の4頁である。基本方針を基に会議の中で検討された内容を含めながら、嬉野市独自の内容も盛り込んだ計画を作っていきたいと考えている。委員の方には様々な意見を出してもらいたい。

委 員：5期の計画がうまくいったのかどうか、わかれば教えて欲しい。

事務局：現在、5期の計画の成果について資料を集めている状況である。

会 長：事業所アンケートの集計や前期計画の整理をしてから、皆が集まって検討していくような形になると思う。

事務局：第2回の委員会で現行計画の評価や整理について検討を行う予定である。

会 長：今回は新型コロナウイルスに関連する影響も考慮するが、他に何かないか。

委 員：国の基本方針には入っていないが、最近は台風や水害など災害が多い。自宅が被害に遭ったり、事業所が何か月も再開できなかったため障がいのある方を受け入れる場がなかった。災害に対してのバックアップや事前に何かできないかと思う。障がいのある子どもは変化が苦手なので、自宅ではない所にいるとパニックを起こしたり、親もうつ傾向になったりするので、はやく日常を取り戻すための支援が必要だと思う。これは計画に関連するのか。

事務局：計画に書き加えたいと思う。

委 員：災害時の対応については去年、別の計画で障がい者や高齢者などの要援護者に配慮したマニュアルを作った。災害が長引いたときの居場所に関してはまだまだである。

委 員：コロナの影響で短期入所を使えていない人が多く保護者は悩んでいる。

委 員：短期入所の受け入れを制限したケースはある。入所施設なので、外から来る人を1ヵ月間制限した。現在は短期入所を受け入れているが、施設内は業者などの部外者は立ち入り禁止、家族の面会も玄関先で行う、帰省についても色々お願いしていることがある。短期入所は定期的な毎週の利用が多いので、それが使えないとなると家族の負担は顕著であると思う。特に障がいのある子どものいる家庭の負担は大きいのではないか。

事務局：今回の計画の基本的な考え方の「(3) 新型コロナウイルス感染症の事業への影響を考察」に災害について加えたい。また、身体障害者福祉協会でもコロナや災害で困ったという話は聞いていないか。

委員：そのような話は聞いていないが、会議そのものができていない状況なので詳しくはわからない。

委員：コロナや災害時の対応は計画書の構成案のどこに入るのか。

事務局：支援の方向性に入ってくる。

委員：今回の計画書ではどうなるのか。

事務局：5・6・7章の中に盛り込むことになる。障がい児に対しては前期計画の49頁の項目になる。

委員：事業量ではないところに、配慮事項として今の意見を盛り込んだほうが良いのではないか。

委員：アンケートは事業所しかしないのか。在宅の障がいのある人の意見はどう取り込んでいくのか。

事務局：障がいのある人のアンケートの予定はない。

委員：以前、障がいのある人向けのアンケートをしたと思う。

事務局：3年前の障がい者福祉計画策定時にアンケート実施している。今回の計画はサービス確保のための事業実施計画になるので事業所アンケートを実施した。

委員：障がい者福祉計画には災害について記載されている。

委員：第3次障がい者福祉計画で浮かび上がったニーズを満たしているかどうか振り返る機会はあるのか。サービスについて提供する事業者側だけでなく、利用している障がい者本位の計画になった方が良い。

事務局：3年後の障がい者福祉計画策定では当事者のアンケートを実施する予定である。

委員：アンケートしなくても、当事者の声は聞かないのか。

事務局：今の状況では集まってもらって意見を聞くのは難しい。

委員：3年前のアンケートの内容を分析して、そのニーズに事業者が応えているのか振り返りができればと思う。

委員：3年前のアンケートをまとめて、利用者の声を委員に配ったらどうか。

事務局：次回の委員会では意見を出せるように、3年前のアンケート内容を配布する。

会長：他に意見はないか。

委員：放課後等デイサービスが全く足りていない。現状は、支給決定に対して事業所数が足りていないので、支給決定をもらったのに使えない人がいる。利用者は放課後児童クラブでの受け入れが難しくなり、放課後等デイサービスに流れてきているという状況である。放課後児童クラブへの支援が増えれば良いのだろうが。

委員：放課後児童クラブでも手帳所持者や気になる子どもは増えている。

委員：特別支援学校の学童と放課後等デイサービスを併用している人もいるようだ。

委員：親の仕事場の関係で点在している事業所の方がニーズがあると思う。

委員：前期計画の評価や分析を受けて次回話し合った方がわかりやすい。

会長：他に意見はないか。

一同：意見なし

会長：次の議題に進む。

## **(2) 今後の予定について**

会長：次回はアンケートの集計結果や前期計画の評価等について検討する予定である。  
これで今回の会議は終了する。